

2023 年度（第 46 回）日本形成外科学会専門医認定審査 についての公示（第 2 報）

2023 年 8 月 20 日
一般社団法人 日本形成外科学会
専門医認定委員会
委員長 奥本 隆行

一般社団法人日本形成外科学会専門医認定委員会は日本形成外科学会形成外科領域専門医制度ならびにその細則に基づき、第 46 回認定審査を下記の要領で実施します。

昨年度より研修プログラム修了者（新制度対応者）の申請がスタートしております。

旧制度対応者においても申請方法が過去の申請方法から変更がある箇所がございますので、当年受験予定者は本会告を最後まで熟読し、申請準備を進めていただきますようよろしくお願いいたします。

また、専門医認定委員会で現在検討している事項について、9 月号の会告に掲載する予定で進めていますので、掲載された場合そちらも併せて必ずご確認くださいようお願いします。

1. 専門医認定審査受験者の資格

専門医受審者の資格は、以下に定める条件を充足する医師で、2023 年度年会費を 2023 年 10 月 31 日（火）までに納入済の者に限ります。

【旧制度対象者】

- a) 日本国医師免許証取得後 6 年以上であること
- b) 4 年以上ひきつづいて日本形成外科学会正会員であること
- c) 臨床研修 2 年の後、学会が認定した研修施設において通算 4 年以上の形成外科研修を行うこと
- d) 第 19 条に定める研修を修了し、第 20 条に定める記録を有するもの
- e) 日本形成外科学会主催の春季・秋季学術講習会受講証明書を 4 枚以上保有すること

※本学会入会以前の形成外科研修歴をこの研修期間に含めることはできません。ご自身の入会日は必ず事前にご確認ください。なお、同時期に複数の施設で研修していたとする研修歴は認められません。

【新制度対象者】

- (1) 6 年以上日本国医師免許証を有するもの
- (2) 義務化された臨床研修 2 年の後、本制度施設認定細則に定める研修施設において通算 4 年以上の形成外科研修を行うこと
- (3) 前号の形成外科研修は、専門研修基幹施設における 6 ヶ月以上の研修期間を含まなければならない
- (4) 前々号の形成外科研修は、3 ヶ月以上の地域医療研修を含むことを推奨する
- (5) 第 12 条に定める症例を経験し、本細則第 13 条、第 14 条に定める記録を有するもの
- (6) 学会主催の講習会（春季学術講習会、秋季学術講習会）4 回以上の受講歴を有すること
- (7) 1 編以上の形成外科に関する論文を筆頭著者として発表しているもの（発表誌は年 2 回以上定期発行され、査読のあるものとする）

2. 専門医審査手続方法

a) 必要書類データ

申請書類はすべてデータで提出いただくこととなっております。

下記からご確認をお願いします。

※申請書類ダウンロードページ

<https://jsprs.or.jp/specialist/shorui/index.html>

【新制度対象者】

- 1) 専門医申請書データ（データ入力後、自署、捺印したものを PDF データ化し提出）
- 2) 履歴書（最終学歴以降）
- 3) 受験者確認票シート（枠内に収まるように写真データを貼り付けてください）
* 1) ~ 3) は形成専門医申請 EXCEL の 1 ファイル中にあります。
- 4) 研修プログラム修了証明書（統括責任者より発行）
- 5) 300 症例確認表（NCD-Person から PDF にて出力が可能）
* 2024 年度の申請までは、上記の NCD-Person を用いた確認表でなくとも、経験・執刀症例数が別途確認できる証憑をご提出いただければ本確認表と同等として扱います（書式自由）。
- 6) 10 症例の所定の病歴要約（細則第 20 条第 3 項）データ
- 7) 形成外科に関する論文 1 編の別冊の PDF データ
- 8) 厚生労働省より発行される『臨床研修修了登録証』の写しの PDF
- 9) 春季・秋季学術講習会受講証明書データ * 4 枚必要です。
- 10) 日本国医師免許証のコピーの PDF
- 11) 審査料 50,000 円の納付書類のコピーの PDF
* 論文以外（1 ~ 5 + 8 ~ 11）は、すべて 1 つの PDF ファイルにまとめて提出してください。

【旧制度対象者】 に関しては、

- 4) 研修プログラム修了証明書（統括責任者より発行）に代わり、
 - ・経歴（在籍）証明書 I（データ入力後、所属長の署名、捺印したものを PDF データ化し提出）
 - ・研修歴一覧表データのご提出が必要となります。

以上を一括して専門医認定委員会宛に、暗号化した USB にて必要書類とともに書留に準じた方法（レターパックなど）でお送りください。提出ファイルの名前付けや USB への保存の仕方は、電子化 Tips をよく読んで行ってください。

※論文の掲載雑誌についての条件は、年に 2 回以上発行されており、査読がある（日本語または英語の）学術雑誌（Journal）を指し、proceedings などは認められません。ただし、PubMed で検索可能なオンラインジャーナルなどについては、発行回数による制限はありません。また、論文が受理された日付が提出期限内であれば有効とします。なお、入会前に掲載された論文は対象外となります。掲載予定の論文に関しては、必ず『掲載証明書（原紙をスキャンしたもの）』と『論文本文』を 1 つの PDF にまとめて提出してください。

b) 審査料 50,000 円（資格審査料 30,000 円を含む）

郵便局にある所定の振替用紙もしくは銀行振込対応で本委員会郵便振替口座へ振り込んでください。

なお、既納の審査料は原則として返還しません。

* 通信欄に「専門医認定審査料として」と記載してください。

【ゆうちょ銀行から送金の場合】

郵便振替口座：00140-8-51198
加入者名：日本形成外科学会 認定医認定委員会

【他の金融機関から送金の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：〇一九店（ゼロイチキユウ店）
預金種目：当座
口座番号：0051198

c) 書類提出期間

2023年9月18日(月)～2023年10月31日(火)【消印有効】

[ただし、事務局に持参して提出する場合は2023年10月31日(火)17時必着です]

d) 提出先住所

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル9階
日本形成外科学会 専門医認定委員会 宛

3. 試験日および試験場

〈筆記試験〉

2024年1月11日(木) 予定

〈口頭試問〉

2024年1月12日(金) 予定

試験会場：AP 品川アネックス 予定

〒108-0074 東京都港区高輪3-23-17 品川センタービルディング 1階, B1階
<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawaanex/>

4. 認定審査の方法

- 1) 提出された書類の審査を行い、資格の有無を決定します。(資格審査)
- 2) 有資格者と確認された申請者について形成外科的一般知識に関する筆記試験、ならびに主に研修記録に関連した口頭試問を行います。(試験審査)
- 3) 筆記試験と口頭試問を上記日程にて行い、両者及び書類審査を含めた総合判定により合否を決定します。

審査の結果は、専門医認定委員会から本人に直接通知します。

合格者は、登録料30,000円を所定の口座に払い込んでください。認定証は専門医機構より発行予定です。

【注】会員マイページより試験問題集の確認や模擬テスト受験が可能です。ぜひご活用ください。

(会員マイページログインURL)

<https://mypage.sasj2.net/jsprs/login>

5. 申請書類記入上の注意

申請書類ならびに審査基準は改良を重ねておりますが、毎年書類不備が認められます。不備の内容は、事務的資料不備、臨床能力評価資料不備の両者に認められます。専門医には医師の能力のみでなく社会人としての素養が求められ、十分に配慮された資料の作成と提出が必要です。本公示、電子化 Tips を熟読し、吟味精察された書類作成、さらには研修施設責任者等の校閲を受けて提出していただけますようお願いいたします。

a) 一般的注意

- 1) 申請書類は専門医申請ファイル中のテンプレートに従って入力してください。自署・捺印の必要な書類はプリントアウトし、黒インク、黒ボールペンを用いて署名、捺印の上、スキャンし、PDF ファイルとして提出してください。
- 2) デジタルデータは、「電子化 Tips」に記載された方法で、セキュリティ USB メモリーに保存してください。
- 3) 年月日は西暦で統一してください。
- 4) 全項目について、記入漏れのないように慎重に確認してください。
- 5) 【旧制度対象者】経歴証明書は、それぞれ連続する1期間につき1枚記入してください。
(同じ施設での研修であっても期間が異なる場合、経歴証明書は分けて作成すること。
学会入会年月日をご確認の上、研修証明書を作成願います)
- 6) 【旧制度対象者】形成外科研修については、研修施設ごとに経歴証明書を記入し、9ケタの施設番号を必ず記入してください。
施設番号が不明の場合は学会事務局までお問い合わせください。
- 7) 同一施設内における他科所属の取り扱いにつきましては、形成外科指導医の下に研修を行っていただければ認められます。
- 8) 【旧制度対象者】経歴証明書は原則、現在の当科の科長からもらうこととします。
(認定施設の長が異動、あるいは不測の理由で証明できない場合、病院長あるいは後任者が一括して研修期間を認定することができます)
- 9) 大学院生などの研修期間に関しては、週4日以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできますが、臨床研修が週3日のものはその年限の3/4を、週2日のものはその年限の1/2を、週1日のものはその年限の1/4をカウントするものとします。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定します。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門医認定委員会で審議、調査することがあります。
- 10) 押印箇所に押印のない書類は「書類不備」とみなされますので、提出前に押印漏れがないか、しっかりと確認してください。
- 11) 過去に受験経験がある方は、前回の書類様式で申請することはできません。すべて本公示、電子化 Tips に記載された様式で新たに作成し直して提出してください。また、審査基準は年度ごとに改定されるため、前回と全く同様の内容や症例で提出された場合、不合格になることがよくみられます。本公示、電子化 Tips・Q & A を熟読後に、再度書類内容を吟味して、新しく作成して提出してください。

形成外科研修プログラムのカリキュラムにも記載があるとおり、専攻医は研修期間の間に、300 症例（うち執刀 80 例）の経験が必要であり、NCD 形成外科疾患大分類における以下の分類での症例経験数が最低限必要となります。

最新の形成外科研修カリキュラムは下記ホームページよりご確認ください。

https://jsprs.or.jp/specialist/shutoku/seido/kenshu_program.html

大分類	下位分類	必要な経験症例数（うち執刀必要数）
I.	外傷 熱傷・凍傷・化学熱傷・電撃傷 顔面軟部組織損傷 顔面骨折 上肢・下肢の外傷 頭部・頸部・体幹の外傷 外傷後の組織欠損	60 (10)
II.	先天異常 口唇裂・口蓋裂 頭蓋・顎・顔面・頸部 四肢 体幹・その他	15 (4)
III.	腫瘍 良性腫瘍・母斑・血管腫 悪性腫瘍 腫瘍続発症 腫瘍切除後の組織欠損	90 (18)
IV.	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド 瘢痕拘縮 その他の瘢痕性疾患	15 (3)
V.	難治性潰瘍 褥瘡 下腿（足）潰瘍 その他の潰瘍	25 (3)
VI.	炎症・変性疾患 四肢 体幹 その他	VI、VIIIを合わせて 15 (2)
VII.	美容（手術）	必須症例ではない
VIII.	その他 眼瞼下垂（Ⅰ外傷、Ⅱ先天性、Ⅲ腫瘍が原因、のものは、Ⅰ～Ⅲに含める） 腋臭症 その他	VI、VIIIを合わせて 15 (2)
A. 指定症例の合計		220 (40)
B. 自由選択枠症例の合計		80 (40)
C. 総合計症例数		A. + B. = C. 300 (80)

b) 300 症例

- 1) 300 症例は、旧制度と異なり、「症例単位」ではなく、NCD 登録に準拠した「手術手技単位」の提出になります（注意点は Q & A を参照のこと）。
- 2) 必須経験指定症例 220 症例に加え、80 例の自由選択枠経験症例（上記区分のどの症例でも可能な自由枠：80 症例中、執刀症例 40 例）を加えた合計 300 症例（そのうち執刀が 40 + 40 = 80 例）を経験することが専門医認定審査の申請要件となります。

- 3) 専攻医が所属する研修プログラムグループ施設内の症例で、上席の医師の指導の下に行った症例であればよく、指導医または専門医の指導の下であるかどうかは問いません。(専門医未取得の上席医師の指導の下でも可)
- 4) 旧制度とは異なり、Ⅰ～Ⅷの大分類ごとに経験すべき症例数が決められている「指定症例」220症例と、「自由選択枠」の80症例を合わせて300症例となっているので、注意してください。
- 5) 10症例で提示した症例は300症例に含めてよいとします。
- 6) 連携候補施設での経験症例は300症例に含めることができます。
- 7) 300症例の一覧表はNCD-PersonからPDFにて出力が可能です。

*なお、過去の会告で「Extract. 顔面神経麻痺」(必要経験症例内に1例以上を含むこと)となっておりましたが、この要件はなくなりました。顔面神経麻痺の症例は、その原因により上記Ⅰ～ⅢとⅥのいずれかの経験症例としてカウントするものとします。(専門医認定細則第3章第12条「Ⅰ～Ⅵのいずれかの分において、顔面神経麻痺の症例を必ず1例は経験しなければならない。」は削除されました)

第13条 専門医認定申請を行うものは、前条に記された必要経験症例を含め、所属研修施設上席医師の下で直接手術に関与した300症例(うち80症例以上は術者として経験した手術症例)の一覧表を研修記録として提出しなければならない。

一般社団法人日本形成外科学会形成外科領域専門医制度専門医認定細則(令和3年4月制定)より抜粋

今後は専門医認定審査に使用できる要件の症例はNCDにて症例登録を行ったもののみを利用できることとする予定であるので、専門医申請を予定している会員におかれましては、300症例で提出予定の症例は必ずNCDへの登録を行うようお願いいたします。

また、手術を行った施設がNCD登録を行っていない場合には、新規でNCDへの施設登録を行っていただくようお願いいたします。

NCD症例登録情報が確定した症例に対しては、過去に遡って助手の追加などができない等の過去データの修正ができない可能性がある点も併せてご注意ください。

2025年度の専門医認定審査以降は上記を完全適用する予定です。

それまでの移行期間についてはNCDへの症例登録がなくても10症例および300症例の研修記録が委員会にて所定の様式で確認できれば認めることとします。

c) 10症例

- 1) 資格審査・口頭試問の対象となります。
- 2) 10症例については以下の条件が必要となります。
 - A) 前項の大分類(Ⅰ～Ⅷ)のうち5項目以上を含まなければならない。
 - B) 基幹施設または連携施設において指導医の下で執刀した症例のみが使用可能。

(連携候補施設や指導医不在の地域医療研修施設での症例は使用不可)

ただし、専攻医が常勤の連携候補施設に、プログラム指導医が出張で来た際、そのプログラム指導医が専攻医自身の研修プログラム内の基幹施設や連携施設において常勤で按分されていれば、その指導医の指導下で行った症例は“2例までは10症例として利用可能”とする。

※本件に関しては2023年4月1日以降の症例からの適用とし、過去の症例は認められない。

- C) 同一項目かつ同一術式の症例が重複することは好ましくなく、同一の下位分類からは術式の異なる2例までの提出を許可する。

- D) マイナー症例の判断と取り扱いは、旧制度と同様で変更なし（大分類を5項目で10症例を提出し、そのうち1例がマイナー症例と認定されて全体で大分類を4項目しか含まなくなってしまう場合は書類審査で不合格となりますので十分に熟慮した上で10症例の提出をしてください）。
- 3) 基準を満たさない症例が含まれた場合は、原則として不合格となりますので注意してください。
- 4) 10症例の写真の作成・提出に対しては以下の点に留意してください。また、**Q & A も必ず熟読**してください。
- a) **10症例はすべて術後180日以上経過した写真を必ず提示してください。**
(形成専門医申請ファイルの中にある10症例写真チェックシートで確認できます)
術後178日経過写真のように、ほぼ180日経過していたとしても、180日以上経過とは認められません。また、1疾患に対し予定手術で2回、3回…と複数回手術を行っている場合(エキスパンダー手術、切離・修正を要する皮弁移植手術など)は、最後の手術日から180日以上経過した写真を提出してください。Q & Aも参照してください。
- b) すべての症例に原則として術前・術中・術後の写真を提示してください。
・術前とは原則として麻酔導入前とします(挿管後や全身麻酔下の写真は術前写真として認めません)。ただし、他科から依頼された同時再建症例、乳幼児や指示に従えない症例などは、麻酔後の写真でも認めます。手術記録にその旨を明記してください。
・術中写真とは、執刀開始から縫合終了までの手術経過を適切に示す一連の写真とします。デザインと縫合終了直後のみでは術中写真として認められません。
※手術の経過を委員が判断できることが重要であり、代表症例となる10症例であれば手術デザインや縫い上がり写真は付されるのが自然であると考えます。
- c) **写真は原則としてカラー写真で提出し、目的とする部位と変化が分かるものに限り**ます。
- d) 提示の写真にはいつ時点で撮影したのかが分かるように、テンプレートに従って「**術前(or 術中 or 術後 or 縫いあがり)写真 20××年○月△日撮影**」と必ず入力してください。入力方法は、「電子化 Tips」で確認してください。
- e) 術前・術中・術後・縫いあがりの写真は、全てに付番して、分類してください。また、形成専門医申請ファイル内にある10症例写真チェックシートに入力してください。写真の区分が明確でない場合は「その他」の区分に入れてください。入力方法は「電子化 Tips」で確認してください。
- f) **上顎骨や下顎骨の骨折手術や骨切り術など咬合が関与する手術は、原則として術前、術後の咬合写真が必須です。**ただし、術前鎮静下にある例や重症骨折例の術前咬合写真は、全身麻酔下の写真でも可とします。また、開口障害を認めた症例は、術前・術後の開口の状態を示す写真が必要です。
- g) **皮膚移植は、採皮部の術後の状態が分かるように写真(術後180日以上必須)を貼り付けてください。**
また、その他の組織採取部(皮弁、骨、軟骨、脂肪、筋肉、筋膜など)も同様の扱いとします。
- h) **眼瞼の症例は、開瞼、閉瞼の両方の写真を提示してください。**
- i) 原則として写真の差し替え・再提出・追加、術後日数の修正は認めません。
- j) 形成専門医申請ファイル内にある10症例写真チェックシートの記入は任意です。全ての項目を記入して問題がないか確認してから提出されることをお勧めします。記入方法は、「電子化 Tips」を参照してください。
- k) 眼窩底骨折などの症例写真については、9方向の眼球写真があると望ましい。
- 5) NCD上で出力が可能なら、10症例のNCD登録症例一覧(目次のような一覧)の提出は不要です。(パワーポイントでご提出いただく10症例データは必要です)

- 6) 申請者が執刀した形成外科における優れた技能を示す代表的な症例を提示してください。
(平易な手技による手術症例は避けてください)
- 7) 主たる手術手技が、単一手術手技になり過ぎないように、同一部位の手術に偏らないように注意してください。同一部位かつ同一手技の症例は1例に限ります。
- 8) 診断名は、病理組織診断名を含めて詳細に記入してください。
- 9) 手術記録は、写真とシェーマで明確に詳しく記入してください。
(術中写真のみで示せないことについては手術の計画が分かるように随時必ずシェーマをつける必要があります)
- 10) 熱傷症例として提出できるのは、原則受傷から2週間以内の症例とします。ただし、全身管理を要するものはこの限りではありません。また、病院の都合や患者側での理由で2週間を超えるものである場合はその理由を明記した上で、委員会で可と判断された場合、症例として利用可能です。
 - a) 熱傷面積 (%) を付記してください。
 - b) 全身熱傷の非手術例では、熱傷面積、深度のほか全身管理を行ったことを示す補液量、投薬、尿量、体温変化、血液データなどが分かる温度板などを必ず添付してください。
- 11) 分層植皮術に対しては、移植した皮膚の厚さを明記してください。
- 12) 術前術後の放射線画像は原則同じ方法で撮影されたものを提示してください。
- 13) 骨に関する症例は、術前、術後のX線写真またはCT写真(術後90日以上)を貼り付けてください。
2016(平成28)年8月以前の症例に関しては、90日以内のX線写真またはCT写真でも術後の治癒状態が分かるものであれば可とします。
- 14) 唇裂では、初回手術、2次手術を問いません。
- 15) 口蓋裂では、術後の言語評価もしくは術後写真が必要です。
- 16) 大分類Ⅲの「良性腫瘍・母斑・血管腫および悪性腫瘍」として提出する症例では、病理診断名と病理所見を記入し、組織写真を提示してください。
- 17) 血管腫摘出の症例においては、形成外科的な内容を手術記録へ記載してください。
(深部臓器・神経と剥離している所見があり、それを意識していることが分かると委員が判断できるかどうか重要)
- 18) 大分類Ⅲの「腫瘍切除後の組織欠損」として提出する症例は、執刀者が再建を担当した場合に限り提出することができ、切除も担当した場合は、大分類Ⅲの良性腫瘍・母斑・血管腫および悪性腫瘍として提出してください。
- 19) 術前のリンパ腫については評価の記載が必要となります。
- 20) 顔面神経を操作(剥離・再建など)した症例は、術後の運動機能が分かる写真の提出が必要です。
- 21) 他科再建の場合、病理組織の提出は不要です。
- 22) エキスパンダーを用いた手術は、原則として一連(挿入時と抜去再建時)の手術としての資料提出となります。従って、挿入時の術前・術中・術後写真、抜去再建時の術前・術中・術後写真が必要です。
- 23) 手術術式は、正確に記入してください。
たとえば、○○形成術などの曖昧な表現は避け、適切な手術内容を示す手術手技名を用いてください。
- 24) 10症例の書類審査に相応しい症例とは、「術前計画、手術デザイン、用いられる手技、術後管理、手術結果を含めて申請者の技量レベルを示す代表症例」を指し、マイナー症例とは、申請者の技量が形成外科専門医レベルに相当しているか判定できない症例を示します。マイナー症例であるかどうかは、専門医認定委員会での審査事項となります。
10症例中、2症例以上にマイナー症例がある場合には、原則として不合格とします。

- a) レーザー症例はマイナー症例とみなします。そのほか、癬痕・ケロイド・腫瘍・潰瘍などを単純に切除縫縮したもの、皮膚（眼輪筋を含む/含まないは問わない）切除だけの眼瞼下垂症や皮膚切除だけの睫毛・眼瞼内反症の修正、裂傷の単純縫合、単なる重瞼術、傷あとの修正で、単純な切除縫合を行ったもの、頬骨弓単独骨折などもマイナー症例とみなしますので注意してください。
- b) 糖尿病や末梢血管障害などを伴わず、切断レベルに関する詳細な検討を要さないような単なる四肢切断術は、マイナー症例とされる場合があります。
- c) マイナー症例を生じ、その分野で代表的執刀例がなくなったことで5項目を満たせなくなれば、書類が条件を満たさないと判断します。（マイナー症例が1症例の場合、残り9症例で5項目を満たさなければ不合格となります）

*マイナー症例かどうかの質問を当委員会宛にお送りいただくことがあります。当委員会としての見解は下記のとおりです。

『同じ疾患名の症例でも、重症度や大きさ、原因等により手術の性質や難易度が異なるので、疾患ごとに明確に回答することは困難である。』

300症例については、NCD分類、カリキュラム等を参照しながら、適切と考える分類で提出する。

分類決定が困難で、心配であれば、「自由選択枠」に含めればよい。

10症例については、NCD分類、カリキュラム等を参照しながら、適切と考える分類で、10症例に適切であるとする難易度の手術を、代表症例を提出してほしい（マイナーと判定される可能性のある症例の提出は避ける）。

委員会では、それを見極めるのも専門医になる実力の一つと考えている』

- 25) 10症例の症例区分については原則NCD分類を参照するようにしてください。
NCDに登録した大分類と異なる分類での提出を検討する場合、異なる分類での提出が適切かどうかを所属施設の上長とも相談し、登録と異なる分類での提出に至った理由等を手術記録中に記載してください。

【分類Ⅷその他】はNCDに定義された疾患以外は慎重に用いてください（別分類に分類されている疾患は分類Ⅷに分類することは原則認めません）。

- 26) 写真、X線などの必要条件是、施設個別の事情を斟酌しません。必ず提出してください。
- 27) 10症例ファイルは多くの写真を貼り付けるのでファイルの容量が大きくなります。
そのまま提出せず、審査用ファイルの画面表示に適切な品質（解像度150ppi程度）になるようにPowerPointファイルのサイズを圧縮して提出してください。
- 28) 書類審査過程で提出資料に疑義が発生した場合には、記載事項確認のためにカルテの写し、日付が確認できるX線、CT写真のコピーなどの提出を要求することがあります。
悪質な虚偽や事実改竄が認められた場合、不合格となるほかに今後の専門医受験資格が剥奪される可能性がありますことご留意ください。
- 29) 専門医認定審査に関連する新しい情報が発生した際、日本形成外科学会ホームページにて、随時掲載を予定していますので、以下URL先の「TOPICS」を頻繁にチェックされることを推奨いたします。

日本形成外科学会ホームページ (<https://jsprs.or.jp/>)

※1【旧制度対象者】旧制度下で研修した医師が2022年度以降申請を行う場合、申請書類は新制度下での書式に合わせて提出することとなりました。

ただし10症例に関して、指導医の指導下での症例でなくても、専門医指導下の手術であれば、10症例として認めることとします。また、NCDとの紐付けも免除します。なお、旧制度下で研修した医師が2023年度以降申請を行う場合で、2022年4月以降に経験した症例を10症例として提出する場合は、指導医の指導下での症例のみ認めることとします。

※2<書類作成のポイント>

専門医認定委員が申請者の書類を確認します。審査をする委員にとって、申請者の臨床能力を十分に評価・判断できる資料（写真や手術記録への記載）は十二分に用意されているか、申請要件や記載内容に誤りはないか、審査を行う目線で十分に確認し、作成してください。

- ・一般社団法人日本専門医機構の理事会で2021年6月25日に専門医認定試験指針が承認され、再試験に関しては、以下のように記載されています。

再試験

■研修修了から受験までの猶予期間、回数

研修修了から5年未満に4回までの受験が可能である。

*専門医申請の初年度から4年以内には資格取得が出来るよう、入念な準備をお願いします。

6. 個人情報の取り扱いについて

- 1) 申請書類は3年間事務局にて保管した後、破棄（溶解処理）いたします。保管・廃棄にあたっては個人情報保護法を遵守します。
- 2) 一般社団法人日本形成外科学会個人情報保護方針に基づき、収集した個人情報は専門医認定審査の目的に利用し、他の目的には利用いたしません。
- 3) 申請書類作成に際しては、電子媒体を利用したり、施設外へ情報を持ち出したりすることにより盗難や紛失等の機会も増えます。申請者は、特に10症例には要配慮個人情報（機微情報）に当たる可能性のある情報が存在するので、データを暗号化するなどして厳重に取り扱うようお願いいたします。
- 4) 個人が特定される可能性のある症例については、患者への十分な説明のもとに承諾をお取りください。

7. 問い合わせ

症例内容などの学術的質問に関しては、所属施設の上長と相談の上、判断が難しいのもののみ事務局までお問い合わせください。

日本形成外科学会専門医認定委員会

E-mail : jsprs-office01@shunkosha.com